

提案型協働事業 「協働を進めるための市職員・ NPOスタッフ合同研修」へ参加しました

市とNPO等の市民活動団体が協働を進めるにあたって、共通の理解・認識に立って事業を推進することを目的に、昨年度から市職員・NPOスタッフの合同研修会を開催しています。今回は、10団体が現場体験受け入れ団体となり、市職員13人、NPOスタッフ17人が参加して、1月12日から3日間各団体での活動体験などを行い、最終日にはワークショップでの意見交換が行われました。まちセンを協働事業として運営する「まちづくりサポート国分寺」も「まち歩きコースの立案」の実習（現場体験受け入れ）を行うとともに、他の団体への体験研修に3名が参加しました。



《国分寺ハンディキャブ運営委員会》 新保 直樹

このNPOは移動困難者（車椅子を利用している人など）の誰もが社会の一員として暮らせるように、手助けすることを目標としています。スローガンは「みんなで街へ」です。NPOの運営努力と市の助成金により「キャブ」の利用料金はタクシー利用料金の半分です。このようなNPOの存続を願い体験研修を終えました。

《健康体操指導ワーカーズ》 林 銑太郎

身近で活動されている体操クラブの存在を知らず、高齢者の体操の集まりかと思い参加しましたが、5年～10年と長く続けられ、その熱心さとレベルの高さに驚きました。元気な女性の参加者が多く平均寿命の長い理由のひとつでしょうか？

介護や認知症などの問題が顕在化している現在、共助・近助とともに、自分自身の頭や身体が元気なうちに、自立、健康づくりに参加行動しなければと感じました。

《ワーカーズ風ぐるま》 萩本 秋彦

NPO主催の親子の居場所づくりの活動「親子ひろば」に参加しました。当日は親子3人の参加でしたが、木製の玩具でお子さんを遊ばせたり、本の読み聞かせをしたり、保護者との情報交換などを一緒にしました。市の職員も参加し、NPO、市職員それぞれが協働の意味について話し合いもしました。有意義な一日でした。

《まちづくりサポート国分寺》 本田 久幸



受け入れたNPOスタッフは、皆さん経験豊富で、さまざまなアイデア続出でした。そして、立案したコースを約1時間30分かけて実際に歩き検証しました。楽しく有意義な意見交換ができました。職員の参加者からは、市職員としての立場だけでは得られない、さまざまな知識、視点が得られてよい。現場を見ることの重要性を感じた。いろいろな経験・知識を持っている人たちが互いに教え合うのはとてもよい。協働の実現には、市とNPOとが共通の認識を持つことが必要で、こういう研修の継続が重要、などの感想が出ました。